

# 7月の米雇用統計は堅調

## ポイント① 2カ月連続で25万人以上の雇用増

8月5日に発表された7月分米国雇用統計によれば、非農業部門の雇用者数は前月比25.5万人増と事前の市場予想（18万人増）を上回り、6月の29.2万人増に続いて2カ月連続で25万人を超える堅調な伸びとなりました。失業率は4.9%と前月から横ばいでしたが、米国で概ね完全雇用状態と考えられる5%を3カ月連続で下回りました。また、時間当たり賃金は前年同月比2.6%の上昇と6月の2.5%を上回り、やや高い伸びとなりました。

## ポイント② 早期利上げの観測が再浮上

雇用が堅調に増え、賃金上昇率もやや高まったことから、FRB（米連邦準備制度理事会）が次回9月20、21日のFOMC（米連邦公開市場委員会）で昨年12月以来の利上げに踏み切るのではないかとという見方が、市場の一部に浮上しているようです。確かに失業率や賃金上昇率の水準から見て、現在の政策金利の水準は過去と比べて低すぎる感は否めません。そうした見方を受けて、雇用統計発表後は米ドルと米債券利回りはやや上昇しています。

ただ、9月2日には8月分の雇用統計の発表があるため、8月も引き続き堅調な雇用や賃金の伸びが続くかどうか金融政策の行方を判断する上で重要でしょう。

## ポイント③ 先行き減速の兆しも見える

また、少し長い観点では、雇用の先行きに陰りも見えます。米国の実質GDP（国内総生産）は4-6月期には前期比年率1.2%増と市場の事前予想の半分程度の伸びに留まりました。さらに前年同期比でも1.2%増に低下しており、米景気の減速は一時的ではないようにも見られます。

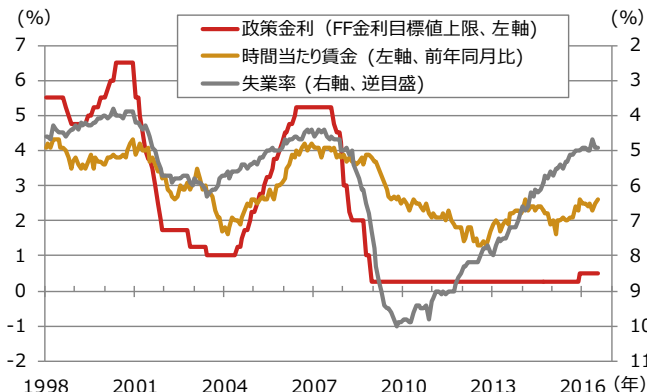
雇用者数は実質GDPに遅れて動く傾向があり、今後、減速に向かう可能性があります。また、実質GDPよりも雇用の伸びが高まっていることは、労働生産性の低下を示唆しています。労働生産性の低下は、中長期的な米国経済の成長力の低下や、企業収益の減退につながる要因として注意する必要があります。

重要  
イベント

8月26日 ジャクソンホール会議でのイエレン  
FRB議長講演  
9月2日 米国雇用統計（8月）  
9月21日 米国金融政策発表

図1：米国失業率、賃金上昇率と政策金利

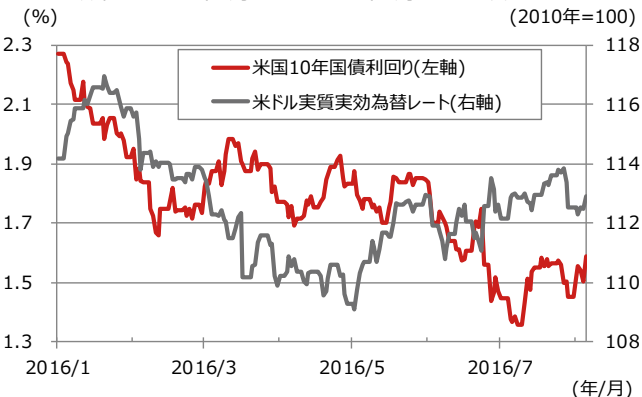
期間：1998年1月～2016年7月、月次



（出所）米労働省、FRBデータより野村アセットマネジメント作成

図2：米国10年国債利回りと米ドル実質実効為替レート

期間：2016年1月1日～2016年8月5日、日次



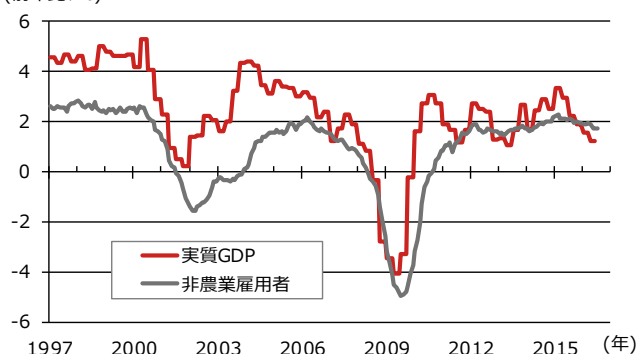
（出所）JPモルガン、Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

図3：米国実質GDPと非農業部門雇用者

期間：雇用者 1997年1月～2016年7月、月次

実質GDP 1997年1-3月期～2016年4-6月期、四半期

（前年比、%）



（出所）米商務省、労働省データより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。